

# 法徳寺だより

## 職 継 職

## 住

法徳寺第十九代目住職を、  
継職致しました。伊東英幸で  
ございます。お寺の長男に生  
まれ、大学を卒業後、一年間  
のサラリーマン生活を経て、

第19代目



第101号 発行  
浄土真宗本願寺派  
法徳寺  
厚木市岡田5-4-12  
TEL 046-228-3962  
FAX 046-229-6962  
住職 伊東英幸  
校正 伊東英俊  
編集 伊東祐子

法徳寺副住職になり、20年が過ぎました。勤めはじめた頃、今でも恥ずかしくなるような数多くの思い出があります。当時、父は、公立高校の校長を勤めておりました。浄土真宗の特徴として、お経を称えるだけでなく、法話をさせて頂くということがあげられます。最初は、法話が出来なかつたので、法話を紙に書いて、作文を読むようにしていました。また、葬儀があつても、白木の位牌に法名を書くことが出来ず、父に頼んで書いてもらっていました。いつだったか、父が勤めに行つた後に、依頼を受けたこ

とがあり、仕方がなく、私が書いていくと、あまりに下手で、葬儀社の方から、「書き直してきてください」と言われたことがありました。私は、仏教系の大学ではなかつたので、僧侶の友人はほとんどおりませんでしたし、横のつながりがあつたかありませんでした。そこで、築地本願寺や、お寺さんによく遊びに行き、他のお寺の活動を学びました。すると、浄土真宗のお寺は、法事や葬儀だけではなく、多くの活動をしていることをはじめて知りました。まず

## 退任の挨拶

前任職 伊東英俊

この度、長男英幸に住職を譲り、退任いたしました。四十六年の長きにわたり、支えて頂いた、ご門徒の方々、家族の者に厚くお礼申し上げます。

父親の突然の往生、学校の教員として、まだ独身でした。「二足の草鞋」をはいの毎日、辛いこともありましたが、二つの人生を生きるような、得をした感じもありました。

学校も定年いっぱい頑張り、住職も無事、卒業させて頂いて、感謝、感謝の毎日です。

これからの残りの人生、お念仏一筋、ゆつくりと過ごしたいと思っております。

合掌



は、自分の勉強のためにも、月一回、法話会を始めることにしました。最初は、法話を考えるのは大変苦痛でした。また、参加者も少なく二人という時もありました。今では、毎月三十〜四十人が参加して頂いています。つぎに、『法徳寺だより』を発行することにしました。今では、百号を超えました。先日、記念すべき第一号を読み返してみました。すると、大変、有難い法話を書いてありましたが、よく見ると、ほとんどが、本の丸写しでした(笑)。季節事の行事もだんだんと増やしていきましました。最初は、参加者が集まらず苦勞しましたが、今では、本堂に入りきれない程の方が来て頂けるようになり、回数も数回に増やしました。それに伴い、隣接地を取得し大幅に駐車台数を増やすことが出来ました。

お寺は、生きている者のためにあるのではないかと、お寺を手伝うようになり、しばらくしてから、私はそう思うようになりました。お寺は、残されたご遺族を支えるためにあるサポーターである。そして、生きている者が救われ、励まされる場である。そうでなければ、お寺の存在価値はない。お経は、亡き方に向かって称えるものだけれども、同時に、残された者を励ましてくれるものだ。私が、称えるお経、私がお話する法話によって、遺族の方が、喜んでくれます。その笑顔で、私まで、幸せな気分になれます。それが、私の励みになりました。

ホームページを開設したのも、大きな転機だったと思います。ホームページをご覧頂いて、ご縁が出来るのがずいぶん、増えました。平成八年には、第二十四代即如ご門主様、今年、次期門主である新門様にも訪問して頂き、誠に嬉しく有難いことです。

法徳寺は、開山五百年が過ぎました。大切なことは、何でもいから続けていくことだと感じます。人生は、いつも輝いてわけではありませんが、辛いこと、悲しいこと、嫌なことにあふれています。でも、一日一日その一つ一つを、乗り越えていくことで満足感が得られます。人生はその積み重ねです。今、辛いのは、頑張っているから、その頑張っているのは、仏さまが、あなたを頑張らせて頂いているのです。

住職の発案で、法徳寺永代合祀墓の建立も大きかったです。こんなにも沢山の方に、ご利用頂くことになるのは、建設当時は想像しておりませんでした。

いつか、この世を卒業する時に、お互い「辛かったことが多かったけど、生まれてきてよかった」といえる人生を送りたいものです。  
(法徳寺第十九代目 住職 伊東英幸)

振り返ってみると、私は、幼い頃から、お寺が嫌で嫌で仕方ありませんでした。それが、今こうして住職をさせて頂いているのが、今でも不思議です。でも、一番に思うのは、浄土真宗のお寺に生まれたことの幸せです。親鸞聖人の教えに出会ったことがなかったら、今頃、どうなっていたか。阿弥陀様に見守られ、導かれたお陰です。浄土真宗のお寺は、一生懸命、教えを伝えておられる僧侶の方が多いらしいです。お寺に訪ねてこられる方にお聞きすると、郷里で、幼い頃から日曜学校やお寺にお参りされた経験、お経を称えた経験を持っておられる方が大変多くいらっしゃいます。その当時のご住職のご苦勞は、本当に、頭が下がります。

### 親鸞聖人750回大遷忌法要

平成23年4月9日よりスタートしました。50年に一度の大法要も残すところ、10月、11月、1月で終了となります。法徳寺では、11月10日〜11日に団体参拝をする予定です。申し込み頂きました皆様、どうぞ宜しくお願い致します。

法然上人800回忌・親鸞聖人750回忌

### 特別展 法然と親鸞

～ゆかりの名宝展～

会期 平成23年10月25日～12月4日(36日間)  
場所 東京国立博物館 平成館(月曜休館)  
チケット大人 一般1500円 前売り1300円

# 住職補任式

## 西本願寺、住職補任式

平成23年9月27日～28日の2日間、浄土真宗西本願寺派の御本山、京都の西本願寺で研修と、住職補任式が行われました。

住職補任式とは、新しく住職になる僧侶と、門徒責任役員が参加をし、御本山より正式に住職として任命される式です。

法徳寺からは、伊東英幸と門徒責任役員である秋本茂雄様が参加いたしました。

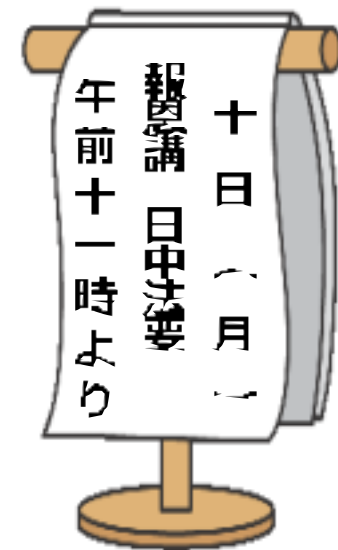
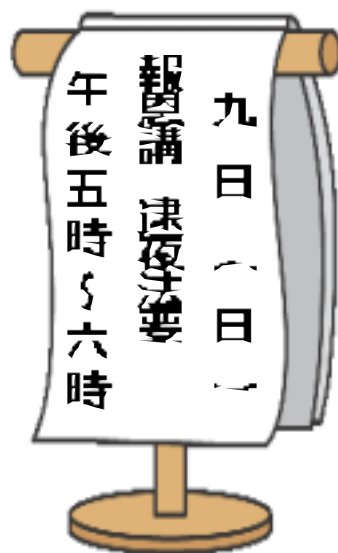
当日は、新住職及び、各寺の門徒責任役員が、全国各地より約100人程、集まりました。

研修では、色々な地域の方々と多くの意見交換が出来、とても有意義でした。住職補任式では、御門主様に住職補任状を戴き、大変、身の引きしめる思いでありました。今年、親鸞聖人750回大遠忌の記念すべき年に、住職としてスタートできることを心から感謝申し上げます。また、今まで同様、皆さまと浄土真宗の御教えと、お寺を守っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



報恩講は、私達の浄土真宗をお開きになった、親鸞聖人のご命日(旧暦11月28日)を縁とした、浄土真宗最大の行事で、二日間行われます。「速夜(たいや)法要」は、お通夜にあたるものです。法要後、お弁当・お酒をご用意しています。

「日中(につちゅう)法要」は、いつもと違い、華やかな飾りつけの本堂で、多数の僧侶の読経により行われます。読経、法話の法要後、おとき(精進料理)を召し上がって頂きます。お酒の用意もありますので、飲まれる方は、お車はご遠慮ください。



## 10月9日(日) 10日(月)

# 報恩講のご案内

ご参拝頂ける方は、事前に申し込みをお願い致します。

お願い

ハガキに記入して、郵送して下さい。参加者一人3000円程度、ご協力お願い致します。服装は平服で構いません。

ご欠席の場合、一戸3000円をご協力頂ければ幸いです。お布施は、阿弥陀様にお供えし、報恩感謝の読経をさせていただきます。郵送にて、お願い出来ればと思います。

法徳寺 〒243-0021 厚木市岡田5-4-12 046-228-3962

## 七五三

お寺で、お子様の七五三のお祝いをしましょう。いつも見守って下さる阿弥陀様へ、先立っていかれた方々へ、お子様の成長をご報告する行事です。お寺までお申し込み下さい。



## ニコニコ法話会

10月 3日(月) 念仏奉仕・ニコニコ法話会 (報恩講準備の為、清掃奉仕をお願いしております。動きやすい格好で、ご参加下さい。)

11月 2日(水) ニコニコ法話会  
12月 2日(金) ニコニコ法話会